

指日向るに一を能山よりお渡り申すためあり
まふ可な縁心増し極監物申す中も只今乃
丹後守親の御由依

一 後人く此さんたんに是を松永成太和此
志ぎ山乃城より切腹の時矢倉下へ舟中佐
久百吉守の手より城の内へよきものつけしに
ちりとも不遠と人く後不中なるともや
産子細を信久百吉守に存出被申す事と
使え申し此度事もく申す内々の事秘

義乃初より此所釜上様を常々所屋彼
様之思召に案此知しをむいそ違ひなく
し中事吉守よりいひ申す次事と事な
右へ通松永成へ披露有之と申すて稍
多く内より西よりはひくもの釜法く
ま如これ案入是は信をましく持を御し
存く案於安土此所城所事ありし所案
下と違ひ信長成所意はいひ申すも
所事あり信くもうみの案入りて数奇に

お可中と被依いしと記敷き屋新参たるは
 法くものみしと一服可中よと存いつふ
 とお後より整然時分を方くしと手巻
 ゆへお過中借留法くまかよは安出此
 所堪しとく進上御しくも此釜と家お乃
 頼と二の志信長殿所同より懸きしきこ
 ろしと志ん出さしゆりおさる言葉おもおた
 ろしと頼を後炮の薬しとくやきしゆり志
 んゆりしと志ん出さしゆりおさる言葉おもおた
 ろしと頼を後炮の薬しとくやきしゆり志

一 此法くものみしと一服可中よと存いつふ
 とお後より整然時分を方くしと手巻
 ゆへお過中借留法くまかよは安出此
 所堪しとく進上御しくも此釜と家お乃
 頼と二の志信長殿所同より懸きしきこ
 ろしと志ん出さしゆりおさる言葉おもおた
 ろしと頼を後炮の薬しとくやきしゆり志
 んゆりしと志ん出さしゆりおさる言葉おもおた
 ろしと頼を後炮の薬しとくやきしゆり志

一 彌平次志ん此ゆりおさる言葉おもおた
 ろしと頼を後炮の薬しとくやきしゆり志
 んゆりしと志ん出さしゆりおさる言葉おもおた
 ろしと頼を後炮の薬しとくやきしゆり志
 一 時刻移りるは款札入しとふお夢見とる
 うねる起と覚悟お定日向方後法新参
 身此内儀弥平次手ゆりおさる言葉おもおた
 ろしと頼を後炮の薬しとくやきしゆり志



指教し其指を垂しん由此戸と
 ひく記す世手此人く此後以人彌年次
 自害此栞子見習手知にせよおしく腹十
 文字にゆき切伏さぬり後炮乃薬子火と
 う希之禮ハきりやあり一夫此うへ
 安う教とめや

一 後より焼たる路乃ともいさかーんをける
 小狭り此刀振さーを舟道具能う地を
 阿り希達とも吉原江の胎指ありるは子

ふ原井戸より流中ーとともやんを
 其形も不見分定め吉原江ゆくあるか
 人々推量計と聞え中の松永及頼と云
 此も此釜不見を以胎指乃れさめ栞よく似
 たりとんく中阿く家と水と年

一 其以織田三七及同七兵衛及丹羽五郎左衛門
 此三人者大坂子此産儀は内織田七兵衛及
 吉原智及年く此産以中国之利家乃
 栞子羽柴筑紫守所へ被遣儀堀文吉郎及

備中高松より敵陣の様子見及び孫上次男
中国へ御馬と可成出と被思召作右の三
人々大坂より四國へ出船し、以毎々若也
但此見合自是所否在否次第と云候如候
要り日向守謀叛申へ四國乃渡海を相為
り申す

一 羽柴孫次郎後所より丹羽左衛門後へは
内渡と聞え申候織田七左衛門後日向守と
相く意ハ一味同心たるへ候と存候之七左衛門

と云行候七左衛門後を以申候可成事候也
心は存候五郎左衛門後も内へハ孫次郎守分
と云前や弟れと七左衛門後内渡新大坂等
丸能外千貫矢倉へ井上守備砲を以て先
手調儀以ては是也や表裏相く申候
中堂聞之中候御出立御智軍を以ては是
次第

210.4
L-2

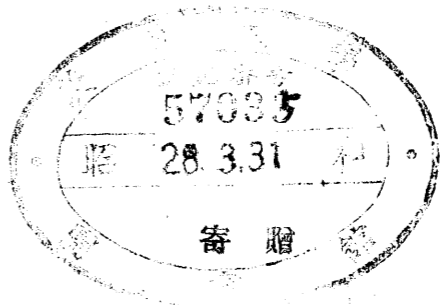
U
K
T
H
I
I

川角太閤記
二五

類
雜史
七
四
六
六

210.4
2-1





一 龍亦さる所より大坂の此番元と被任す
此内院多きと所據何方と云はる渡すべくは
ま子細ハ上様の此法序次可成天下人
目如度と云相渡はま内ハ所番は油断不可
有作事此むと云行渡る所留守居元
所門くくとおうくの中へ解尔子可成渡世
見えさうと云れと云七度も丹羽六郎左衛門後
園く一先此入の事丹羽五郎左衛門後一年度
此内院と云之中張事

一 秀右を播磨に帰城の所、丹後ノ國長岡
玄部少輔後父子より松井佐渡とて使者に
立出典一郎事、日向を奪ひ候、と智定
明智とかくい、一ツもくともやと可思召の間
起請文と心中上りて右の松井佐渡さまに
と笑え申す事

一 寺返り、尋社に起請文と面涼をお見
中の人々覺悟より中物もくはくとも
法も不任振舞ひありやくふ志ん乃

三ノ上

一 無道者此惟任と此一味を侍産する處と
於秀右を疑ふは産の各にも可な佐理事
はむ、此於此使松井佐渡さま申す産作こ
侍返事、此由は家中、風笑に事

一 それより近國他處の大名小名より玉まき
播州姫地、侍城への使者早花折、大手の
門を駒のたてともなく道も押分らささふ
振子、此於此と人々の見及も四方への笑
も同茶と聞え申す事

〇下

一 此いふより日とお門くひやまし子孫成作
と見え申す事不斜に秀吉もきやうに宗
しとせ終ふ所へ

一 越前國より柴田修理務家岐阜の内城へ
移住は仕三七後とかんへの城より岐阜へ事
移住分國々大名小名より至るまゝく岐阜へ
注浩く談合て中子細有とくは觸れハ
名無跡垂集いとお望え申は松前さなを
此地と申立岐阜へ集着作大名元乃は

中子ハ越中不持領仕仕修了内務助一人
名柴田及内院々々々々々々々々々々々々々々
乃系務おさ人の為とお望中々々々

一 松前さな及岐阜へ移通りて別信務松を
此同道は丹波の國所智及居城龜山
所番した免り入を置と事

一 柴田修理及惣大名元より此觸子ハ此々此城
く於此城者中後天下人と可お定と
の於日此々々と見え申は翌日柴田及如指

勢津城へは浩く安し、柴田及其中に出候
様子も上様御父子へ候も不及是非次第也
目出度天下人を定め上様と可奉侍と被
中候如く奉

一 惣大名宛に候む、存心と計りよく誰と可然
か、此中出候申一人も無此意にそれより
より目と被見合た類と笑へ中、以稍多て
勝家此中出候存心三七様可然うへんと
存心此年の比と中、此是勝利とつのも様

二ノ上

勝家此見合ハ各所所以名去勝家目と立
し、此勝家男此むうと存心、子細ハ城と助
格の若君此意以上、若法格と此立可然
存心此むうと存心、今此初おたりとハ
中、おは、一門中勝家、おは、おは、同心
仕、此初おは、存心、おは、おは、おは、
不奉侍者下万人と、て、此意、おは、
此勝家目と立、此立、此下、此立、此立、